Ⅰ　実践

1　実践テーマ

人権の意義・内容や重要性について理解し，人権感覚をはぐくむ人権教育のあり方

2　活動目標

（1）　学校教育全体を通して互いの人権を尊重し合い明るい社会を築いていく中で，自分の大切さとともに他の人の大切さを認められるようにする。

（2）　様々な人権課題を正しく理解し，人権尊重の精神を養っていけるようにする。

3　実践内容

（1）　「ふれあいタイム」の実施

「ふれあいタイム」とは，「生徒同士，生徒と教師が一緒にふれ合う時間を過ごそう」というねらいのもと，年４回，学級または学年単位で３０分程度の時間で実施している。スポーツを通したふれ合い（写真Ⅰ）だけでなく，誰でも参加できるレクリエーションの場合（写真Ⅱ）もあり，誰でも楽しむことができる。これらの活動の積み重ねが身近な仲間を知り，お互いを認め合う人間関係づくりにつながっている。

学年スポーツ交流（写真Ⅰ）

学級すごろくトーキング交流（写真Ⅱ）

（2）　日立養護学校との交流から学ぶ

本校では，隣接している日立養護学校を訪問し，交流を図っている。養護学校とは，グラウンドを一部共有しており，養護学校の児童・生徒を目にする機会は少なくないが，日常的に交流する機会は少ない。１学年では福祉学習の一環として，養護学校での交流会に参加し，どのようなことに注意すれば安全に活動できるか，どのようにすれば一緒に楽しめるかを考えた（写真Ⅲ）。また，地域の清掃活動にも一緒に参加し　同じ時間を共有することで，障害のある人への理解を深めることができた（写真Ⅳ）。

（写真Ⅲ）

（写真Ⅳ）

（３）　茨城東病院への訪問から学ぶ

毎年，ＪＲＣ委員会（今年度から生活委員会）の生徒を中心に茨城東病院を訪問している。30 年以上続く本校の伝統的な活動であり，今年度は，院内の清掃を手伝ったり，一緒に歌を歌って患者との交流を図ったりするなどのボランティア活動を行った。患者との交流では，初めは驚きと戸惑いが見られたが，時が経つにつれ積極的にふれ合うことができるようになり，様々な立場の異なる他者への理解を深めることができた。

（４）　「日立市ふれあい運動会」への参加から学ぶ

毎年，ＪＲＣ委員会の生徒を中心に，「日立市ふれあい運動会」へ参加していたが，今年度はボランティアを募り，２１名の生徒が主体的に参加した。参加者の誘導や運営の補助を行ったり，一部の種目に参加したりして様々な人たちとふれ合うことができた。活動を通して，相手の立場を理解し，その人の立場に立って考え，行動する姿が多く見られた。

（５）　人権感覚と指導力の向上を図るための教職員研修

教職員自らの人権に関する理解と認識をさらに深め，指導力の向上を図るための参加体験型の校内研修を行った。研修テーマを「子どもの権利」とし，生徒や教師，保護者との日常生活で起こりがちな事象を取り上げ，どこが問題なのか，配慮したいことや適切な言葉かけはどのようなものかを考えた。研修を通して，自らの人権感覚を高めるとともに指導者としての必要な知識を身に付けることができた。

４　成果

（１）　生徒は，さまざまな体験的な活動を通して，人権に関する知的理解を深めることができた。

（２）　近隣の養護学校や地域の福祉施設への訪問，福祉活動に参加することで，様々な立場の人たちと共に生きていこうとする幅広い視野をはぐくむことができた。

（３）　学年や学級での活動を増やしたことで，友だちの新たな一面を知ることができ，生徒同士，教師と生徒間での話題づくりの一助となった。また，相手の存在を意識し，良さを認め合う機会が増えたことで相互理解を深めることができた。

Ⅱ　今後の実践

生徒に人権感覚を身に付けさせるために以下の点について今後も継続的に取り組んでいく。

（１）　生徒が活躍できる場を設定し，自主性を尊重しながら自ら考え，主体的に判断し，行動する力をはぐくむ。

（２）　生徒の豊かな人間性をはぐくむため，多様な体験的な活動の充実を図る。

（３）　「人権コーナー」の設置や「人権だより」の発行などを通して，人権に対する関心を広げ，学校・家庭・地域が連携して人権教育に関わる仕組みを作る。

（４）　教職員一人一人が，人権尊重の理念や人権の課題を十分に理解し，人権教育を推進していくことのできる研修の充実を図る。